

# 若林区の魅力 芸術作品「わらアート」で表現!

◀実行委員会とアート班の皆さん。左から2番目が竹野班長



▶マンモス試作の様子。本番イベントでは5メートルの作品を展示します



若林区では、地下鉄東西線開業を契機としてまちを活性化しようと、平成27年3月に地下鉄東西線開業イベント実行委員会を発足。

せんだい演劇工房10<sup>周年</sup>BOXなど若林区ならではの芸術・文化地区の側面を表現する「アート班」が結成されました。

アート班には、まちづくり、演劇、デザイン、農業など、若林区の各分野のプロが集結。「それぞれの力を結集し、区の特徴を出そうとさまざまな企画を出し合った結果、地下鉄東西線の西の起点で

## わらアートができるまで



↓ 稲刈りが終わった田んぼから稲わらを回収します



↓ 稲わらを束ねてシート状に編み込みます。若林区内の全小学校なども制作に協力しました



動物の骨組みに「わらシート」をかぶせて出来上がり! (写真は試作品)

## わらアートイベント



展示期間	会場/展示物
11/21(出) ~ 12/20(日)	荒井駅(荒井駅北西の田んぼ)/マンモス(5m)、トリケラトプス(3m)
12/5(出) ~ 12/20(日)	卸町駅(仙台卸商センター庭園(若林区卸町2-15-2))/オロッシー(推定全長18m)

ある『八木山動物公園』に対し、東の起点にも『空想の動物園』を作ることにしました」と、アート班長の竹野博思(ひろし)さんは企画の狙いを教えてくれます。

動物の素材となるのは、津波被害から復興を遂げた荒井地区の田んぼで採取した稲わら。マンモスとトリケラトプスを巨大な「わらアート」で制作するほか、ネス湖から仙台うみの杜水族館へ視察に来て、卸町に立ち寄った「オロッシー」という空想の動物も出現します。

「わらアートは、わらを編むことで、人のつながりも編んでいく芸術作品。地域の魅力を再発見して欲しいです」と話す竹野さん。東西線開業後の12月20日まで展示を予定しており、「東西線に乗ってぜひ見に来てください」と呼び掛けています。